

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	18	学校名	西部特別支援学校	記載者	本杉 和美
------	----	-----	----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
(1) 安心・安全な学習・教育環境づくり	ア. 事後も含めた緊急時の対応力向上	・災害時や緊急時に自ら考えて行動でき、児童生徒の安全を守る状態になっている。	A	A	
	イ. すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取組の充実	・職員が連携して安全に医療的ケアを実施できている。	A	A	
		・校内が安全で衛生的になるように常に整えている。	A	A	
		・個々の児童生徒に適した食と環境の提供及び摂食指導をしている。	A	A	
		・性教育全体計画を活用して性教育の授業や性教育の視点をもった指導を行っている。	B	B	・CD評価に対する学校としての認識と改善策が明確に示されているとよい。
	ウ. 多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教職員	・児童生徒の人権意識が高まるような指導ができている。	A	A	
		・児童生徒・教職員にとって、学校が安心な場所になるように、人権を意識した言動を心掛けている。	A	A	・人権チェックシートの取り組みを通して、全体として人権意識が高まったかどうかを検証していく必要がある。

(2) 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり	ア 教育課程の組織的な検討と仕組みづくり	・指導内容を明確にして年間指導計画・個別の指導計画を作成している。	A	A	
		・目指す児童生徒像に迫る教育課程について考えている。	A	A	・D評価もある中で、A評価にした根拠が示されているとよい。
	イ 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・自立活動と各教科、双方の視点による実態把握を授業に反映させている。	A	A	
		・授業づくりでは、個別最適な学びと協働的な学びが検討されている。	A	A	
	ウ 教員の専門性向上	・児童生徒への支援や授業づくりについて話し合い、実践している。	A	A	
		・肢体不自由教育における専門性の向上を実感している。	B		・学校の取組の様子からB評価は厳しいように思うが、肢体不自由教育の指導は特に専門性が必要であることを考えると、B評価が妥当である。
	エ キャリア教育の充実	・キャリア教育を実践し、社会生活を送る上で必要とされる力を身に付けるような指導をしている。	A	A	
	オ ICTの活用の充実	・指導目標達成に向けて、ICTを効果的に活用するように、日々、検討し充実させている。	B		・ICT機器の活用について、外部委託や保護者がボランティアとして参加する方法もある。PTAとも協力できるとよい。 ・ICT機器活用の困難さの理由を明確にし、それに合わせた対応策を考えられるとよい。

様式第5号

(3) 保護者・地域・関係機関と連携協働した学校づくり	ア 保護者や地域、関係機関との連携強化と情報発信	・児童生徒の学びの様子が保護者や地域に伝わるよう情報発信している。	A	A	
		・支援会議やケース会議、進路相談をタイムリーに開き、組織的効果的な支援を行っている。	A	A	
		・互いの良さが発揮できる交流及び共同学習を行っている。	A	A	・交流先の学校の評価も明確になっているとよい。 ・学校間・交流籍交流は継続して行っており、学校として自信をもってよい取組である。
	イ 地域に根付いた学校づくり	・地域資源を活用した学習を行っている。	A	A	
ウ 生涯を通じて豊かに生きるための教育活動の充実	・卒業後の豊かな生活を意識して、いろいろな経験ができるような学習を行っている。	A	A		
(4) 共に支え合い学び合う生き生きと働く職員集団づくり	ア 共に支え合い、働きがいのある職場づくり	・職員同士がお互いを大切にしている職場である。	A	A	
		・キャリアステージに基づく自身の役割を校内で果たしている。	A	A	
	イ 指導の充実に向けた働き方改革の推進	・時間外在校等時間が月 45 時間以内になるようにタイムマネジメントをしている。	A	A	・働き方改革の工夫について教えてほしい。 →職員室の中に、気軽に話し合いができるスペースを設置できるとよいと考えている。

様式第5号